《2024 年 4 月の聖書の言葉》

『新しい歌を、主に向かって歌え。』 旧約聖書. 詩篇 96 篇 1 節

もしもこども園で、今日だけ、“歌を歌わない”としてみたら、どうなってしまうか？…たちまち、「え～。歌がないなんてありえない！」という声があがるだろうと想像しました。それほどの位置づけで、みんなで歌いましょうと呼びかけ、歌が満ちている毎日なのだと気づきました。では、どうして歌うの？と改めて考えてみました。幼い子どもにとって、歌う効果とは何なのでしょうか？

朝早くに、外から「ピピピ」と鳴き声が聞こえてきました。鳥を探すと、むむ。「ウグイス」のようでした。よく聞く「ホーホケキョ」の鳴き声は、最初から上手くいかないので練習するのだとか。ナルホド。 だんだんと習得してゆくのですね。

幼子たちも、同じです。先生が歌っている。家族が歌っている。最初は、聞いているだけとみえますが、聞こえてくる歌声や音を、自分の中に取り込んでいるのです。だんだんと、まねて、自分でもやってみる、これが「習(なら)い」。新しい歌を習得する仕組みです。

来る日も来る日も、聞いては取り込み、見てはまねる、幼子たち。こうなると、日常の中で、どのような言葉を聞き、どのような所作に接しているのか？これは大問題だと感じます。人はかならずや影響を受けてゆくわけですから。

ルーテルこども園では、食前に、こう歌います。 ♫ 天のお父様、今ここに、いただくご飯をかんしゃします～♪ わたしを力づけるために料理された、この食べ物がわたしの体の中で力になるように。ありがとう。いただきます。こうした言葉の食育も人の体と心の栄養になるでしょう。

さあ、新年度が始まりました！
生まれて、使い始めたばかりの新しい命に、神様がつくられた自然の音、さまざまな命たちの声、たくさんの善い歌を聴いて欲しいし、優しい空間・時間に包まれて欲しいと願っています。善い歌を覚えて、体と心の力・栄養を取り入れるため、みんなで一緒に、たくさん歌いたいと楽しみにしています。

（チャプレン.白川道生）